

第6講 外部労働市場と内部労働市場

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 労働市場の構造

1 今後の予定

11/29 授業時に中間試験をおこなう。試験範囲は、その前回の授業の内容まで。自筆のメモ (A4用紙1枚) のみ

2 課題

仙台と福岡に工場を持つ電機メーカーがあり、仙台工場でスマートフォンを、福岡工場でパーソナル・コンピュータをを生産している。このメーカーは、市場動向の変化にともなって、仙台工場を縮小して福岡工場を拡大したいと考えている。

このとき、つぎのふたつの人事戦略には、それぞれどのような得失があるか。企業側の立場に立って答えよ。

- (1) 仙台で雇用を減らして福岡で増やす
- (2) 仙台工場の労働者を福岡に移動させる

3 労働市場の構造

「労働市場」 (labor market) …… 労働の売り手と買い手が取引する場。

3.1 内部労働市場と外部労働市場

初回「予備知識の調査」参照

内部労働市場 (internal labor market):

外部労働市場 (external labor market):

内部労働市場はなぜ成立するのか?

3.2 法律による規制

「解雇権濫用法理」…… 前回資料

このような規制がおこなわれる理由

- 労働者の生活保障
- 労働者の交渉力の維持

3.3 企業経営上の効率

- 企業特殊な人的資本の形成 (→ 次回)
- 社会関係資本の形成 (→ 次回)
- 新しい労働者 (候補) について情報収集・判断するコストとリスク
- 労働者が働く動機づけ → より高い生産効率

ただし、企業側からみると、全ての労働者について常にこのような必要性があるわけではない。

- 非熟練労働者や専門的労働者の場合は、企業特殊な人的資本をあまり必要としない
- 労働者に関する情報については、ほかの企業 (労働者派遣会社) にまかせることがありうる
- 景気の変動や需要の変化によって、必要とする労働の量と種類が変化する

→ 非正規雇用の (企業にとっての) 重要性

文献

神林龍 (2010) 「ヒマからクビへ: 法と経済の視点から解雇を考える」『日本労働研究雑誌』 597, pp. 26-31.

<<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2010/04/pdf/026-031.pdf>>

佐野陽子 (1989) 『企業内労働市場』 (有斐閣選書) 有斐閣.